

◇ プログラム

12月15日(火) 13:00 ~ 17:30 (オンライン会議室 12:00~18:30)

13:00~13:10 開会の辞 東田 進也 (名古屋地方気象台長/中部支部長)

13:10~14:50

- (1) 小野 太郎 (福井地方気象台)
深層学習による気象衛星画像の高解像度化
- (2) 八木 雅文 (東海大学)
高解像度全球洋上海上風応力データの比較検証
- (3) 田中 瑞樹 (富山大学)
対流平衡におけるコリオリパラメータの影響
- (4) 神谷 圭 (富山大学)
熱帯海洋上の対流活動における大気成層とエアロゾルの影響
- (5) 山中 晴名 (三重大学)
CMIP6 マルチモデルデータを用いた南大洋の SST 上昇に関わる諸現象の将来変化

15:10~17:10

- (6) 松島 史弥 (名古屋大学)
気候変動に伴う台風の特性の変化
- (7) 関 涼平 (富山大学)
台風になる熱帯低気圧と台風にならない熱帯低気圧に関する研究
~2019年9月の事例
- (8) 山城 来奈 (名古屋大学)
2018年台風 Trami の内部コア領域で観測されたメソ構造
- (9) 倉知 佳弘 (富山大学)
GPM 潜熱加熱プロダクトおよびドロップゾンデ観測から得られた台風内部の
潜熱加熱分布の特徴
- (10) 石田 凌雅 (金沢地方気象台)
台風による石川県の気温に関するデータ解析
- (11) 伊藤 忠 (日本気象予報士会東海支部)
令和2年台風第10号に伴って東海地方に形成された線状降水帯周辺のメソ気象場

12月16日(水) 09:20 ~ 15:30 (オンライン会議室 09:00~17:00)

09:20~10:40

- (12) 晴枝 茜 (富山大学)
梅雨前線における水蒸気の輸送過程の変化
- (13) 室内 創太 (富山大学)
隣接閉領域追跡法による梅雨前線上のメソ α 低気圧の同定と追跡
- (14) 加藤 里枝 (富山大学)
アンサンブル気候予測データを用いた現在・将来気候における梅雨期
日本域の降水特性に関する統計解析
- (15) 川端 玲衣 (富山大学)
衛星降水レーダを用いた熱帯と中・高緯度における夏季降水特性の比較解析

11:00~12:00

- (16) 川口 航平 (名古屋大学)
マルチパラメータ・フェーズドアレイ気象レーダデータに基づく孤立積乱雲の
内部構造の時間変化
- (17) 岩田 和樹 (名古屋大学)
マルチパラメータ気象レーダデータを用いて解析した雷をもたらす積乱雲の特徴
- (18) 辻 泰成 (富山大学)
日本海における雨の粒径分布の季節変動

13:20~15:20

- (19) 竹端 光希 (三重大学)
オホーツク海の海氷変動に及ぼす熱帯海面水温からの遅延影響
- (20) 太田 圭祐 (三重大学)
チャクチ海の海氷激減による2017/18年東アジアの寒冬の強化
- (21) 中村 祐貴 (三重大学)
近年の関東地方における降雪の極端化とそれをもたらす環境場の変化
- (22) 西井 和晃 (三重大学)
鳥羽・伊勢での大雪事例の解析
- (23) 中西 友恵 (三重大学)
サヘルの対流に伴う熱源がもたらすユーラシアを横断するテレコネクション
- (24) 加藤 茜 (三重大学)
全球規模で見るテレコネクションとGDP成長率の共変動

15:20~15:30 講評 坪木 和久 (名古屋大学教授/中部支部理事)
閉会

講演時間 20分 (講演 15分、質疑応答 5分)

今年度は支部長賞授賞式および特別講演はありません。
支部長賞選考結果は、後日、支部 ML および Web page にてお知らせします。